

1:18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。1:19 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。1:20 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないうあなたを妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。1:21 マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」1:22 このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。1:23 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)1:24 ヨセフは眠りからさめ、主の使いに命じられたとおりにして、その妻を迎え入れ、1:25 そして、子どもが生まれるまで彼女を知ることがなく、その子どもの名をイエスとつけた。

はじめに

12 月 25 日は、世界中の何百万人ものクリスチャンがクリスマスと呼ばれる祭りを祝う日です。国によっては、9 月頃からクリスマス商戦が始まるところもあります。英国では、10 月 20 日には既にクリスマスの飾りやその他関連商品の販売がされていました。多くの人にとっては、クリスマスと言えばイルミネーションで、イルミネーションが見られる場所を求めて出かけます。京都で一番魅力的なライトアップの一つとも言えるのは、嵐山の竹林を歩いて楽しめるライトアップです。神戸にはルミナリエもありますし、日本中の多くのショッピングモールに素敵なイルミネーションがあります。特に子どもたちにとってはそうですが、クリスマスと言えばプレゼント、と言う人もいます。

クリスマスに向けての月でその年の売上の 40% を上げる企業もあります。クレジットカードを使いクリスマスに浪費してしまう人もいて、その負債を払うのに長期間かけるのですからあまり良いことではありません。その他、クリスマスの食べ物、家族の訪問、大事な人が居ればロマンチックな夜など、この時期には多くの祝い事があります。こう言ったことが間違っているのではありませんが、これらはクリスマスの本当の意味ではありません。実は、聖書はクリスチャンがクリスマスを祝うようにとは言っていません。1 年のこの時期に私たちが目にするものは、人によって作られたビジネス事業で、お金を生み出すため、そして束の間の良い気分を提供するために設計されているに過ぎません。

けれどもクリスチャンの行事として、イエスが最初に来られた時のことを聖書から見出すことは良い機会となります。イエスが誰で、なぜこの地に来られたのかを思い出すのは良いことなのです。イエスが再び、すぐ戻って来られるということを思い出す良い機会ともなります。

今日のクリスマスのメッセージは二部構成です。まずはイエスが最初に来られた時のことについて聖書を探ること、それが今日のメッセージの大部分です。そして少し、イエスの再臨についても向き合いたいと思います。

先ほど読んだマタイ 1:18-25、つまりイエスが最初に来られた時についての聖句を見ると、イエスが誰なのか、なぜこの地に来られたのかが分かります。

1. イエスとは誰か？(23 節)

多くの方は、人生のある時点で歴史を学びます。

日本では5年生の時に日本の歴史から学び始めます。高校へ行く頃になると世界史を学ぶようになり、ローマも含むヨーロッパの歴史も学びます。英国では、5年生でローマの歴史について学びます。ローマ帝国について私たちが知っていることの多くは、全て歴史的書物や考古学から来ています。英国には、ローマの集落や都市に関する多くの証拠が存在します。実は私が住んでいる場所も、古いローマ都市の城壁があるエクセターと呼ばれる場所から19キロほどしか離れていません。私の家の前を通っている道路は、元々はローマ兵によって建設されました。なぜ私がこういつたことを知っているのでしょうか？それは、過去何世紀にも渡って、歴史的文書が複製され、受け継がれてきたからです。また、私の実家付近にあるバースと呼ばれる都市には、ローマ時代の温泉もあつたりと、いまだに多くの建設物が存在します。

これらの歴史的文書の信頼性は4つのことに基づいています。

1. いつ、その文書が書かれたか
2. 現存する最古の写本
3. その出来事が起こってから、現存する最古の写本までの期間
4. 現存する複製された写本の数

同じことが聖書にも言え、特に新約聖書はそうです。イスラエルには聖書の正確さを証明する物質的証拠も多く存在します。聖書の新約部分には、ギリシャ語の写本が5万7千、ラテン語は1万の写本があります。

新約聖書に記録された出来事とそれが書き記された時代の間の期間は50年です。イエスが地上におられた時の出来事を必ず含む直近の歴史的文書は、その出来事の280年後に書かれ、27の写本しか残っていません。ですから、イエスがこの地に生きておられた時代についての最も正確な歴史的記録は新約聖書ということになります。この地を一度歩んだイエスという人の存在を否定することはできません。それは歴史的事実として知られています。イエスの人生の最も素晴らしい歴史本は、マタイ、マルコ、ルカ、そしてヨハネによる福音書です。これらはイエスの誕生、人生、死、そして復活についての正確な記録です。

では、イエスと呼ばれた人は誰だったのでしょうか？答えは今日の聖書箇所、マタイ 1:23にあります。マタイは、イエスがお生まれになる800年前の預言を引用しています。ユダヤ人の預言者イザヤは処女が男の子を産み、その子はインマヌエル（神は共におられる）と呼ばれるようになると預言しました。マタイは、イエスという方のうちに神が人となられたことを明確にしています。私たちが生きる宇宙とこの世の創造主である方が、イエスという方の内に人となられたのです。

ヨハネ 1:1-3 「1:1 初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。1:2 この方は、初めに神とともにおられた。1:3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。」

ヨハネ 1:14 「1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」

日本はもう冬ですね。最近では皆さんも秋の葉の色の美しさを目にしたことでしょう。

けれどもあと3ヶ月も経てば、もう次は美しい桜の時期を祝うことになります。
こういった美しいものはすべて、2000年前にイエスの内にこの地に来られた聖書の神によって造られたものです。

聖書の神による目的に溢れたデザインは、自然の至るところで目にすることができます。
OICを出て左へ歩いて行くと、夏になると学校沿いにいくつかイチョウの木があるのがわかるでしょう。この種の木は、日本で17世紀に発見され、18世紀初期にヨーロッパに持ち込まれました。

今ではこの木も多くの国々で見ることができます。
日本ではその葉が扇の様にも見えるのでこの木が人気なようです。

イチョウの木は現存する木で唯一、扇型の葉を持つことで知られています。
この形に至るまでの過程の葉があったことは証明されておらず、実際、一部の人が何百万年前のものだと信じているイチョウの木の化石は今と全く同じ形をしています。
これが神の目的に溢れるデザインを証明しています。
また進化論の理論が正しくないということも示しています。
イチョウの木に関するもう一つの事実として、オスのイチョウの木は、受粉するためにメスのイチョウの木の近くに育たなければならないということです。
イチョウの木を見れば、極端なほどの多様性をお造りになるデザイナーの御業が分かります。また、キョクアジサシと呼ばれるとても小さな鳥が存在します。
この鳥はヒナを育てるために短い夏を北極で過ごし、繁殖期以外は夏の南極で過ごすため1万5000キロの旅路を旅します。
この鳥は、その30年間の人生で100万キロ近く旅をします。
この鳥も、1万種ある鳥の一種類にすぎません。鳥たちは皆驚くべき目的に満ちたデザインによっているのです。

神は多くの素晴らしい植物、鳥類、動物、そして私たちが創造のうちに見ることができるすべての美しいものをお造りになりました。神の創造物を通して神の美しさが映し出されることは本当に素晴らしいことです。
聖書の神はまた、力にすぐれたお方です。神はすべてをご存知で、それでいて人としてこの世に来られるほどにご自分を低くされました。
神は、この地へ来られるために素晴らしき天の栄光を離れました。
このクリスマスの時に私たちが問うべき重大な問いは、「なぜ、この世とその内にあるすべての創造主なる方が、若き処女マリヤの胎に来られるという超自然的な誕生を通して人となられたのか」ということです。

2. なぜイエスはこの地に来られたのか？

答えは今日の聖句マタイ 1:21にあります。

マタイ 1:21 「1:21 マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」

つまり、神は罪からの救い主となるという目的から人となられたのです。

この世が救い主を必要な理由を理解するために、神が世を、最初の男女をお造りになった時点まで遡る必要があります。

また私たちが救い主を必要な理由を理解しようとする前に、聖書の神について非常に大切なことを知っておく必要があります。

とても大事なことですから、忘れないでください。

聖書の神について決して忘れてはいけないことは、神は100%聖い方であるゆえに、神の御前にある罪を黙って見過ごすことはできないということです。

聖さとは、説明したり表現したりするのが非常に難しいものです。

たった一人、唯一この地で100%聖い人間であられたのがイエス・キリストでした。それはイエスが、人の形を取られた神だったからです。

聖書の旧約部分に、聖さについての理解を少し助けてくれる部分があります。

イザヤ 6:1-7 「6:1 ウジヤ王が死んだ年に、私は、高くあげられた王座に座しておられる主を見た。そのすそは神殿に満ち、6:2 セラフィムがその上に立っていた。彼らはそれぞれ六つの翼があり、おのおのその二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでおり、6:3 互いに呼びかわして言っていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の【主】。その栄光は全地に満ち。」6:4 その叫ぶ者の声のために、敷居の基はゆるぎ、宮は煙で満たされた。6:5 そこで、私は言った。「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。しかも万軍の【主】である王を、この目で見たのだから。」6:6 すると、私のもとに、セラフィムのひとりが飛んで来たが、その手には、祭壇の上から火ばさみで取った燃えさかる炭があった。

6:7 彼は、私の口に触れて言った。「見よ。これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの不義は取り去られ、あなたの罪も贖われた。」

預言者イザヤが聖い神にお会いした時、イザヤは途方にくれました。彼は自分の罪深さを認識し、神はその罪を赦されました。

聖霊を通して聖書の神にお会いしない限り、あなたや私のための救い主となるためにこの世にイエスが来られたことがいかに素晴らしいことなのか、完全に気づくことができません。

では、何が間違った方向へ行き、なぜ私たちが罪深い性質を引き継ぐことになったのか、どうしていつか死ななければならないのかを聖書の最初の書から見てみましょう。

死は罪の罰であることもわかるでしょう。

神が物質的な世をお造りになった時、神は男をお造りになり、彼から女をお造りになりました。世は完璧で、神はご自分がお造りになった人間と完全なる関係を持っておられました（創世記 1-2 章）

神はお造りになった人を美しい園に置かれました。そして彼らが自分で意志決定できるようにされたのです。神はたった 1 つだけ制限を設けました。そしてその命令に背いた場合の罰を彼らに知らせました。

創世記 2:15-17 「2:15 神である【主】は人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。2:16 神である【主】は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。2:17 しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

アダムとエバは聖い神に背いた時の罰をはっきりとわかっていました。

その罰は死でした。

神はこの完璧な 2 人が永遠に生きるように造られていました。

悲しいことに聖書ではサタンとか悪魔と呼ばれる墮落した御使いが園へやってきて、エバを誘惑して神の命令に背くようにさせました。

エバは禁じられていた実を食べ、夫であるアダムをも誘惑して彼女に従わせました。

神はその背きを見られました。

神はアダムとエバを美しい園の神の御前から取り除き、神が約束していた死の罰が彼らの人生に入ったのです。（創世記 3 章）

アダムとエバはすぐには死にまसेんでしたが、のちに死にました。

彼らの罪の責任は私にないのになぜ私が死ななければならないのか、と疑問に思うでしょうか。

ローマ 5:12-21 「5:12 そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも

全人類が罪を犯したからです。5:13 というのは、律法が与えられるまでの時期にも罪は世にあったからです。しかし罪は、何かの律法がなければ、認められないものです。5:14 ところが死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの違反と同じようには罪を犯さなかった人々をさえ支配しました。アダムはきたるべき方のひな型です。5:15 ただし、恵みには違反の場合とは違う点があります。もしひとりの違反によって多くの人が死んだとすれば、それにもまして、神の恵みとひとりの人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人々に満ちあふれるのです。5:16 また、賜物には、罪を犯したひとりによる場合と違った点があります。さばきの場合、一つの違反のために罪に定められたのですが、恵みの場合は、多くの違反が義と認められるからです。5:17 もしひとりの違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、なおさらのこと、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりのイエス・キリストにより、いのちによって支配するのです。5:18 こういうわけで、ちょうどひとりの違反によってすべての人が罪に定められたのと同様に、ひとりの義の行為によってすべての人が義と認められ、いのちを与えられるのです。5:19 すなわち、ちょうどひとりの人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、ひとりの従順によって多くの人が義人とされるのです。5:20 律法が入って来たのは、違反が増し加わるためです。しかし、罪の増し加わるころには、恵みも満ちあふれました。5:21 それは、罪が死によって支配したように、恵みが、私たちの主イエス・キリストにより、義の賜物によって支配し、永遠のいのちを得させるためなのです。」

なぜ私たちに罪からの救い主が必要なのかこの聖句から分かることを願います。創世記 3 章の出来事の後、神は人間を罪の罰から助け出すための救い主をお送りになると約束されました。

神が約束を満たされるまで長い時間がかかりました。この世は暴力に満ち、罪深かったため、神はノアとその家族以外の人間を滅ぼして、また一から始めようとされました。神は世に大洪水をもたらされましたが、ノアは正しい人であったため、ノアとその家族は救われました。

創世記 6:9-10 「6:9 これはノアの歴史である。ノアは、正しい人であって、その時代にあっても、全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。6:10 ノアは三人の息子、セム、ハム、ヤペテを生んだ。」
洪水の後、神はノアと契約を立てました。

創世記 9:1-16 「9:1 それで、神はノアと、その息子たちを祝福して、彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地に満ちよ。9:2 野の獣、空の鳥、——地の上を動くすべてのもの——それに海の魚、これらすべてはあなたがたを恐れておののこう。わたしはこれらをあなたがたにゆだねている。9:3 生きて動いているものはみな、あなたがたの食物である。緑の草と同じように、すべてのものをあなたがたに与えた。9:4 しかし、肉は、そのいのちである血のあるままで食べてはならない。9:5 わたしはあなたがたのいのちのためには、あなたがたの血の価を要求する。わたしはどんな獣にでも、それを要求する。また人にも、兄弟である者にも、人のいのちを要求する。9:6 人の血を流す者は、人によって、血を流される。神は人を神のかたちにお造りになったから。9:7 あなたがたは生めよ。ふえよ。地に群がり、地にふえよ。」9:8 神はノアと、彼と一しょにいる息子たちに告げて仰せられた。9:9 「さあ、わたしはわたしの契約を立てよう。あなたがたと、そしてあなたがたの後の子孫と。9:10 また、あなたがたと一しょにいるすべての生き物と。鳥、家畜、それにあなたがたと一しょにいるすべての野の獣、箱舟から出て来たすべてのもの、地のすべての生き物と。9:11 わたしはあなたがたと契約を立て

る。すべて肉なるものは、もはや大洪水の水では断ち切られない。もはや大洪水が地を滅ぼすようなことはない。」9:12 さらに神は仰せられた。「わたしとあなたがた、およびあなたがたといっしょにいるすべての生き物との間に、わたしが代々永遠にわたって結ぶ契約のしるしは、これである。9:13 わたしは雲の中に、わたしの虹を立てる。それはわたしと地との間の契約のしるしとなる。9:14 わたしが地の上に雲を起こすとき、虹が雲の中に現れる。9:15 わたしは、わたしとあなたがたとの間、およびすべて肉なる生き物との間の、わたしの契約を思い出すから、大水は、すべての肉なるものを滅ぼす大洪水とは決してならない。9:16 虹が雲の中にあるとき、わたしはそれを見て、神と、すべての生き物、地上のすべて肉なるものとの間の永遠の契約を思い出そう。」」

時を経て、神はこの地で神を示して行く者としてアブラハムと呼ばれる男性を選びました。神はアブラハムという一人の人から大いなる国民を生み出すと約束されました。

創世記 12:1-3 「12:1 【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」」

アブラハムからイエス・キリストの誕生まで四二世代かかりました。

この期間、神と神の選ばれた民の間で多くの問題が生じました。

神は**十戒**と呼ばれる、従って生きるべき**十の律法**をお与えになりましたが、人々は何度もそれに従うことに失敗しました。

それでも神は神とその律法を世に示して行く者として、神の民の多くを守られました。

アブラハムの家系がイエスへと繋がりました。イエスは聖く、罪深い性質を受け継ぐ者ではないため、処女からお生まれになりました。

イエスは成長されると、ご自身が神であることを証明するために多くのしるしを行いました。イエスは病人を癒し、盲人が見えるようにし、死者をよみがえらせ再び生きるようにされ、水の上を歩き、小さな男の子の持っていたお弁当で**5000**人を食べさせました。こういったしるしにも関わらず、イエスはユダヤの宗教的指導者たちには受け入れられませんでした。彼らはイエスを約束されたメシア、救い主として受け入れなかったのです。最終的にイエスは、冒とく罪で十字架にかかり死刑となりました。

イエスは人の形を取った神でしたが、人々はその声明を信じなかったのです。

弟子たちもイエスが死から復活された時に初めてイエスと共にいた三年間に教えられたすべてのことを完全に信じることができたのです。

イエスの十二弟子と、主にユダヤ人信徒たちが一緒になり教会がスタートしました。

現在では、イエスへの信仰を告白する者が**25**億人います。

まことのクリスチャンは、イエス・キリストが私たちの罪のために死なれ、彼らの救いは**恵みと信仰**によるもので、神に対しての行いにはよるのではないと知っています。

エペソ 2:1-10 「2:1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、

2:2 そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。2:3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

2:4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、

2:5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——2:6 キリスト・イエスにおいて、ともによみが

えらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。2:7 それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜る慈愛によって明らかにお示しになるためでした。2:8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。2:9 行いによるものではありません。だれも誇ることをないためです。2:10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」

もしもイエスに信仰を置き、信頼し、イエスが自分の罪のために死なれたと信じるなら、今、あなたも神の家族になれます。

イエスが誰なのか、なぜ私たちの救い主となるために来られたのかを完全に理解すれば、クリスマスの物語は素晴らしい真理となります。

これらのことを心で完全に理解し、感謝することができるよう神が助けてくださいますように。

次に学ぶべきことは、イエスがいつかお戻りになるということです。

イエスが最初に来られた時の目的は、謙遜のうちに神の愛を示し、イエスへの信仰を通して恵みによって私たちに救いを与えるためでした。

けれどもいつかイエス再び戻る時には、国々を裁き、個々人を裁き、そして破滅からご自分の民を救うために来られます。

イエスの再臨のしるしとなるもの、そして再臨の目的をお示ししたいと思います。

まずはマタイの福音書を読みましょう。

マタイ 24:1-14 「24:1 イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに宮の建物をさし示した。24:2 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「このすべての物に目をみはっているのでしょうか。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」24:3 イエスがオリブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」24:4 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。

「人に惑わされないように気をつけなさい。24:5 わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。24:6 また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。24:7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。24:8 しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。24:9 そのとき、人々は、あなたがたを苦しめ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。24:10 また、そのときは、人々が大ぜいつまづき、互いに裏切り、憎み合います。24:11 また、にせ預言者が多く起こって、多くの人々を惑わします。

24:12 不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。24:14 この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。」

A. イエスの再臨のしるし

旧約聖書には、イエスの再臨に関して参照できる部分がたくさんあります。

これらはすべて神の選ばれた民、ユダヤ国民に関連しています。最初の預言は申命記 30 章 1-8 節です。

ここは、イスラエルが再び集められること、そしてユダヤの民の心が変わることについて述べています。1948年以前、イスラエルは事実上、不毛の地でした。けれども今は、920万人の人が居住しています。

2万9000人のユダヤ人が毎年イスラエルに帰郷します。

重要なのは、イエスの再臨のしるしの一つは、イスラエルの地に神の民が再び集まることに関係しているということです。

それは、ユダヤの民が、イエスのゆえにすべての国々から憎まれるというしるしです。(マタイ 24:9)

これはヒトラーと彼のユダヤ人に対する憎しみとしてしっかりと記憶されています。ヒトラーは、第二次世界大戦中に600万人のユダヤ人を殺害するよう命令しました。けれどもヒトラーはナチス運動を象徴しているに過ぎません。

イエスはすべての国々の人が神の選ばれた民を憎むと言われました。

このしるしが満たされるのに非常に近いところまで来ています。

現代では、イスラム教国家は皆イスラエルを憎んでいます。イスラム教徒たちはアメリカが大悪魔で、イスラエルが小悪魔だと教えられているのです。

イランは、イスラエルを滅ぼしたいと宣言しました。現在彼らは大量破壊兵器を開発中です。世界中には、イスラム教徒が過半数の国が現在50カ国あります。

まだそこまでは来ていませんが、アメリカがイスラエルを支援しないと決めた時には、再臨は非常に近いことでしょう。

最近では、私たちは再臨のしるしの一つといえる新型コロナウイルスを経験しています。聖書はこう言った種類の病気を疫病と呼んでいます。

確かに私たちの内にいつの時代も病気が存在してきましたが、新型コロナウイルスは海外渡航のために世界中のすべての国々に影響を与えました。

もう一つのしるしは、イエスが既に戻られたという偽りの宣言です。

先ほどの聖句には、多くの人がやってきて、自分たちがイエスであると宣言する、とあります。

こういった人々は、多くの人をだまします。世界中でも僻地では何年も前からそういった惑わしが見られましたが、私が初めてそれを個人的に体験したのは日本でした。数年前にOICで、中国から来た学生たちがOICの教会員たちに「イエスが至るところで姿を現しておられる」と言って影響を与えようとしたことがありました。彼らは、イエスが現れては消えるのだと教えていました。

この学生たちは自分たちがクリスチャンであると言っていましたが、彼らが教えていたのは偽りの教えでした。

OICの教会員にも彼らの教えに影響を受けた人がおり、私はその学生たちにもうOICへは来ないように伝えねばならず、彼らの教えは聖書に反しているのが偽りの教えだと伝えました。

そのやり方のすべてがとても人を惑わすような方法でした。私たちは終わりの日の惑わしには警戒しなければなりません。

現在でも、人々を欺く偽預言者が大勢います。ですから、そういう人たちには気を付けてください。彼らの声明や目に見えるしるしではなく、聖書の真理をもって彼らを、彼らの生活態度をチェックしましょう。

これらは、イエスの再臨が非常に近いというほんのしるしに過ぎません。

イエスの再臨に近づくにつれて、このしるしはどんどん力強くなっていきます。

最後にこの聖句には、罪がいたるところではびこる、とあります。

現代では、LGBT運動によって世界中で当事者たちが社会的に受け入れられるよう押し進められていますが、聖い神にとっては受け入れられるものではありません。実際、聖書の神はこういった罪が神の忌み嫌われるものであると言っています。

(レビ記 18 章には、性的品行についての神の律法が明記されています。)

国々のイスラエルに対する態度に注意しましょう。

イスラエルは特に、イスラエルを破壊したいと明言したイランのことを憂慮しています。私たちが教会としてイスラエルを訪問した時、ある晩にガリラヤ湖付近に立っていたことを思い起こします。私たちの上をイスラエル軍の飛行機の軍勢が飛んで行ったため、何事かと思いました。

数週間後に初めて分かったのは、その飛行機はある特定の標的に夜襲した帰路だったということです。その標的とは、イスラエルを破壊しようとイランの資金と資源によって建設中だった軍事基地でした。

イスラエルは、イエスの再臨のしるしです。

イエスの再臨のしるしについて知っておくべきですが、なぜイエスが戻って来られるのかという理由について分かっておかなければなりません。

B. イエスが再臨されるのは、イスラエルを救い出し、国々を裁き、個々人を裁くため

マタイ 25:31-46 「25:31 人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。25:32 そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け、25:33 羊を自分の右に、山羊を左に置きます。25:34 そうして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。25:35 あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渴いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、25:36 わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』25:37 すると、その正しい人たちは、答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べる物を差し上げ、渴いておられるのを見て、飲ませてあげましたか。25:38 いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まらせてあげ、裸なのを見て、着る物を差し上げましたか。25:39 また、いつ、私たちは、あなたのご病気やあなたが牢におられるのを見て、おたずねしましたか。』25:40 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』25:41 それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火に入れ。25:42 おまえたちは、わたしが空腹であったとき、食べる物をくれず、渴いていたときにも飲ませず、25:43 わたしが旅人であったときにも泊まらせず、裸であったときにも着る物をくれず、病気の時や牢にいたときにもたずねてくれなかった。』25:44 そのとき、彼らも答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渇き、旅をし、裸であり、病気をし、牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』25:45 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、おまえたちに告げます。おまえたちが、この最も小さい者たちのひとりにしなかったのは、わたしにしなかったのです。』25:46 こうして、この人たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入るのです。』」

イエスによるイスラエルの救出とイエスの再臨について詳しくお話する時間はありませんが、最も重要なことについて触れましょう。

イエスの再臨は、全ての個々人の裁きを伴うということです。

コリント第二 5:10 は、私たちすべてが、キリストの裁きの座の前に立つことになることを教えています。

けれども、イエスに信仰と信頼を置けば、私たちは罪のために裁かれることはありません。イエスがそのために死なれたからです。

しかし私たちは私たちの人生を、そして神の選ばれた民をどのように扱ったかを裁かれるのです。

マタイ 25:40 節でイエスは、ご自身が選んだ民を私たちがどのように扱うかに特別注目されています。

46 節は、イエスを拒んだ者への永遠の罰について教えています。

このクリスマスの時期に、まだ時間があるうちに信仰と信頼をイエスに置くようみなさんに強く勧めたいと思います。

聖書は今日が救いの日だと教えています。もう次のチャンスはないかもしれません。神があなたの心に語りかけておられると感じた方は、今日誰かに話しかけて、祈ってもらうことで応答しましょう。

アーメン